

イチゴ「こいのか」の特性

野菜・茶業研究所

（独）九州沖縄農業研究センターと長崎県との共同育成品種「こいのか（旧系統名：高良6号）」の特性について明らかにしたので紹介する。

【普及したい技術のポイント】

- ①7月上旬までに採苗し、8月中旬までに窒素中断する。
- ②本圃での基肥量は緩効性肥料を株あたり窒素量2gで十分である。
- ③花芽分化は「とよのか」並みである。また、低温短日処理による早出しが可能である。
- ④第1次腋花房の出蕾が遅れやすい品種であるため、定植前の土壌分析に基づき基肥を抑えて、第1次腋花房分化確認後に追肥を行う施肥体系とする。

【窒素中断時期と収量】

窒素中断は8月中旬に行うのがよい。窒素中断8月25日は花芽分化が遅れ、年内及び早期収量が少ない（表1）。

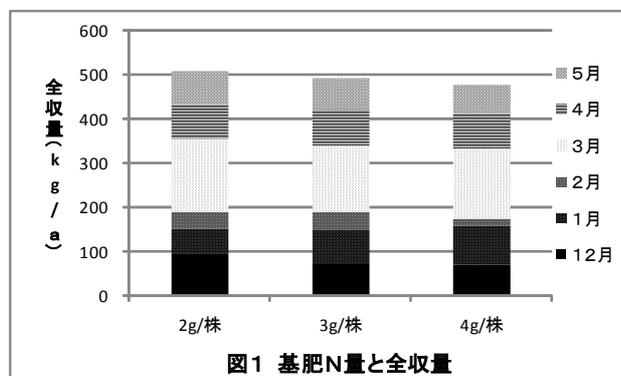
表1 窒素中断時期と時期別全収量と1果重

窒素中断日	収量(kg/a)					平均1果重			
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	合計 (g/果)	
8月5日	1	63	81	17	115	65	39	380	13.6
8月15日	0	75	89	13	158	71	60	467	14.2
8月25日	0	58	76	15	149	81	62	441	14.1

注) 収量は700株/aで換算

【基肥窒素施肥量】

基肥の窒素量は2g/株でよい。基肥の窒素量4g/株区では出蕾にばらつきがみられる(データ省略)。基肥の窒素施肥量の違いで年内、2月まで及び5月までの収量差はない(図1)。



【品質】

「さがほのか」と比較して糖度も酸度も高く、厳寒期も良食味であり果皮色は鮮赤色である(データ省略)。

【花房の連続性】

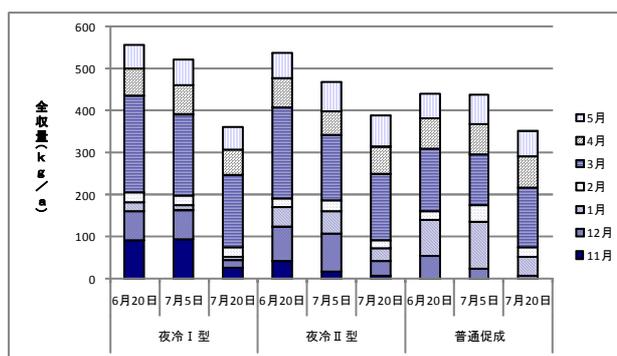
花房の連続性が低く、第1次腋花房の葉数が多くなりやすい(表2)。

表2 花房の連続性(2008年)

品種	頂花房		花数	第一次腋花房		花房間葉数(枚)
	出蕾日	開花日		出蕾日	開花日	
こいのか	10/24	11/7	16.0	12/20	1/11	3
さがほのか	10/20	11/2	10.5	12/6	12/26	6

【低温短日処理適応性】

夜冷短日処理の効果は高く、8月16日からの低温処理で年内収量が多くなる(図2)。年内収量は夜冷I型(処理日8/16~9/7)、夜冷II型(処理日8/31~9/15)、無処理の順に多い。また、低温短日処理における採苗時期は、7月上旬までに行うと年内多収となる(図2)。



【利用上の留意点】

果実の先端部が着色しないまま熟期がすすむ着色不良果が高設栽培に多く発生するので注意する。